時事新報は一年三百六十五日一日も休刊なし

時事新報

第二千二百六十三號　木曜日
明治廿二年四月十八日
舊暦巳丑三月十九日　（甲、子）
日出午前五時三十五分　日入午後六時五十四分
月出午後九時零分　月入午前六時四十九分
潮午前六時零九分　潮午後七時零九分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報

地主黨の團結必要なる可し

目下民間政黨の用意は國會議員撰擧の事より先なるものなかる可し從來の如く政治社會前途の見込未だ定まらざる間には單に來る二十三年を目的として國會と云ひ民權と云ひ漠然たる政談のみにて事濟みたれども今日は則ち然る能はずして憲法も既に發布して議員撰擧の事も定まりたる猶は其上に廿三年は愈々明年と相成りたる次第なれば政黨の用意も着々實地の境に入る可きなれと勿論なして近來は各地方ともに議員撰擧の準備に忙はしき模樣なるが抑も撰擧の事たるや實に人民の利害に大關係を有し民權の消長も之に依て分るゝ程の事なれば之を漠然たる政談視せずして銘々利害の點より勘考す可き筈なるに今日の實際には或は然らざるやの觀なきにあらず蓋し議員の撰擧には種々の手續あるなれども適當なる人物を出さんとするには先づ撰擧人の團體を作り此團體中にて撰め被撰の人物を指定して之を撰擧するの用意急要なる可し若しも然らず撰擧人の心一あらずして銘々勝手の人物を區々に撰擧するときは投票は紙外なる所に落ちて人物の當を得ざるのみならず其間に或は不正の所業行はれずとも云ひ難ければ各地の團體を作りて人撰を謹むべしとは最も急要にして代議の政治に政黨結合の必要あるも畢竟その邊の意味に在るのみならず從來世間の政黨あるものは其目的何れに在るや知る可らずと雖も既に政黨とあるからには亦その邊の用意にも疎かならざる事ならんなれども今日までの處には其疎ずる所如何にも漠然たるの感あき能はずしてよく各地方の撰擧區に團體を作りて適當なる人物を撰出するの功を奏す可きや否やは我輩の未だ知らざる所なり左れば如何にして眞實人民の利害を代表する代議士を出すべきやと云ふに我輩の每度論ずる如く日本は純然たる農產國にして人民の利害は重もに土地に在りて存するのみなれば國會の代議士も亦土地の所有者より出でゝ土地の利害を代表するのみを肝要なるべし而してその代議士は必ずしも多辨多能にして議場に囀々するを要せず唯議事の土地に關するものあるとき輕々に看過せずして能く其利害を觀察し心に之を得て可否の一言を發す可きのみとの趣旨は讀者の既に記憶する所ならん顧ふに國會に於て眞に人民の利害を代表す可きものは彼の漠然たる政談者流に在らずして土地の所有者即ち地方の富豪財產家に在るのみと勿論あれば銘々自家の利害より考へて議員選擧の用意最も肝要なる可し然るに今日の各地方にて選擧の事に熱心奔走する人は所謂政黨員なるものに多くして富豪財產家等には至て其邊の用意あるのみならず或は自ら其權利を他人に讓らんとするものもありと云ふ元來此種の人々は其地方に在て累世の名望家なれば態と求めざるも衆論の爲めに推擧せらるる可きは常然の勢なるに却て自から其名望を空ふして退縮の挙を爲し自家の利害を擧げて他人に一任するとは我輩の解せざる所なり前にも述ぶる如く適當の人物を撰擧せんとするには撰擧人の團體を作るのみと最も必要なれば今より其用意に怠らずして各地方の地主が其撰擧區内に結合を催ほし土地に關する利害の外に他の主義を容れざるのみを主張して他と競爭を試みに以て自家相傳の私產を保護するは直先に對して本意なるのみならず國家の大計に於ても亦公けの得策なる可し世の政談者流には何黨何派なと稱し其名目の下に奔走するものも少なからずして自から亦一の團體を成すの姿なきにあらざれば或は之と區別する爲めには假に地主黨とおどの名稱を附するも可ならんか兎に角に其主義目的は地面の利害を同ふする人々が相集りて氣脉を通じ其中より適當の人物を推撰して私有を保護するに在るのみ斯く云へば直て人民の思想は各々一あるのみ能はずして其利害の關係も亦各々異なる可けれは國會議場に政黨の分立を見るは勢の免れざる所にして敢て咎む可きに非ざれども唯我輩は全國民を一體と視做して其最大最多の幸福を重んじ地主黨をして議場に最重の地位を得せしめんことを希望するのみ

雜報部

○ポアソナード氏送別會　今度任滿ちて愈々本月下旬歸國するポアソナード氏の爲め此程佛學會員は同氏を紅葉館に招待して送別の宴を開きたるが來會者は蜂須賀侯爵、箕作司法次官、平山大藏大臣秘書官、栗塚司法大臣秘書官、岸本辰雄、龜山貞義、藤井善言今村有隣等の諸氏凡そ五十名ありて辻同會長は左の送詞を述ぶ

日本東京佛學會名譽會員佛國巴里法科大學名譽教授ギュタヴ　ボアソナード　フォン　ダラビー君將に國に歸らんとす我佛學會員聊か酒饌を具して君の行を送る抑君の本邦に來られしより茲に十有六年公に私に其盡されし所の誠心効されし所の功績は炳焉として人の耳底に在り吾輩は本邦人として先づ之れを謝せざるべからず況んや我佛學會の如きは創設の始めより今日に至るまで君の贊助を蒙りし事蓋し鮮少なからず且つ法律經濟の學に關しては君が講義の勞を辱おふせしこと蓋し二十回に及べり君の熱心以て本邦學術上に我佛學會に對し吾輩何ぞ懇々の情に堪へざるを得んや然りと雖徒に離別を惜むも亦益なきなり我佛學會員たるものは自今以後須く此會の事業を擴張して以て本來の目的を達するのみを勉むべし是れ庶幾り君が既往の厚意に酬ふる所以なるべしと且つ切に願くは君が海外に去る後も雖翁書翰を繼て本邦の學術上殊に我佛學會の前途に向つて之れを贊助する所あらんことを新次不敏なれども茲に會員一同に代て此辭を述べ君に一盃を献し且君の眞壽を祝すると云爾

○新富座の芝居　は名にし負ふ忠臣藏の出し物に役者は上方の揃ひなれば蓋明より以來大に人氣に叶ひ今日に至るも尚は數日前より申込まざれば場所に差支へる間中村一登久の獨樂廻等あり主客何れも欲を盡して歡會したるは九時頃おりしと因に記す當日佛學會よりポアソナード氏に小判數枚を贈りたりと云ふ

○海軍士官學術試驗　此程より海軍大學校に於て士官學術試驗の執行中なりしが去る十三日を以て全く結了せしかば目下其成績の取調中なるよし

○東京郵便電信局　豫て日本橋區江戸橋際に工事中なる同局の土臺地固めは此程已に竣工したるを以て目下家屋建築の工事に取掛りたる由なるが該工事の費額總豫算は十二萬五千圓位の見込なりといへり

○皇宮警官の總數　皇宮警察署に於ては退々警官を增加し現今の總數は正副署長を除き警部、同補にて二十一名警手二百四十一名又京都にありては警部一名警手二十六名を合計二百八十九名ありと

○初岡、中村兩氏の大赦禮告祭　舊秋田藩士初岡敬治中村恕助兩氏の爲め在京の秋田縣人は去る十四日江東中村樓に於て大赦禮告祭を執行したる由なるが明治初年右の兩氏が國事に奔走せる頃の知己朋友は概ね刑辟を罹りたるを以て他縣人にして此度の祭事に付賛成したる内田政風、建野鄕三、丸山作樂、中沼清藏、宇田廉平等の諸氏を始め參集したる秋田縣人は無慮百餘名なりしと何當日式了りたる後初岡敬治氏の遺稿及び石版摺の肖像等を配布したりと云ふ扨て同氏は秋田藩士にして戊辰の際殊に功勞ありしゝば明治二年の頃には公議人に任せられ尋て衆議院幹事に推撰せられたるも同三年辭して藩に歸りたる後幾許もなくして古賀十郎中村恕助の隱謀に與したりとの嫌疑を以て東京に拘せられ四年十二月三日遂に斬に處せられたる人なりと

○益田氏の饗應　三井物產會社長益田孝氏は一昨日矢野高等商業學校長を始め目下上京中なる各地方商業學校長を鹿鳴館に招待して晝餐の饗應を爲したるよし

○甲信鐵道會社　同會社の本免狀は一兩日の内にも下附相成るべき手筈なりしが何か其筋より詮議の廉ありしと見え暫らく見合す事とありしといふ

○名古屋建築會社　名古屋の豪商服部小十郎等諸氏の設立せる名古屋建築會社は資本三十萬圓を以て社名の如く建築の業を營むものなるが今度府下京橋區尾張町なる中外物產會社内に出張所を設けて府下の建築工事を請負ふ計畫なるよし

○兌換銀券發行高週報　日本銀行より發行せる八日より同十三日に終る一週間の發行したる兌換銀券の平均高は之れを前週に比較して表記すれは左の如し

自八日一週目　至十三日一週　本週の增減

兌換券發行高	自八日一週目	至十三日一週	本週の增減
準備 金貨及金塊	一五、四三七、四一七	一五、四三七、四一七	增減
銀貨及銀塊	二六、九一四、三一六	二八、二一五、七七四	一、三〇一、四五八 增
公債證書	一四、一七六、一〇〇	一四、一七六、一〇〇	
丼大藏省證券	三、四二一、八〇〇	三、四二一、八〇〇	
保證 政府證券	一、八八三、二七四	一、八八三、二七四	
流通高	五九、一四九、二一五	五九、一五二、二一五	三、〇〇〇 增
手許有高	二、三一八、五二一	三、三二一、六二六	一、〇〇〇 減
	五九、一四九、二一五	五九、五七九、六六八	四三〇、〇〇〇 減

○横須賀の飲水　同港は兎角飲料の水質惡しきより流行病の時なとは碇泊の艦船、兵員等が難地したる事もありたる程なるが獨り鎭守府には水道の官設ありて其水質も善良なるを以て今度同地方人民よりの請求に依り該水溜に餘水ある節は人民一般へも施與する事を定めたるよし

○薩富座の芝居　は名にし負ふ忠臣藏の出し物に役者は上方の揃ひなれば蓋明より以來大に人氣に叶ひ今日に至るも尚は數日前より申込まざれば場所に差支へる程の有樣なり總て必要なるものはあらざるに天、大星由も座主の借金を〳〵にて辭心あるを辭ず止められ可し若し如く雨大入を引起したット此順で來年子はあらで客し就ては最初のす由なて既に去時間の繰合も付みすみとおるべ

○力士小錦の一撲も遲々日に京を急ぐよし名び勝となり現み日取りおりしも日漸く小錦が故鄕里）の興行をして來る廿一日も都て二十四

○金魚の景況　ものゝ兎角雨天乘らぬ模樣にて館地方への輸出は三十四荷計りとして賣込問屋れの仕度をなし品薄の傾きあるべしと尤も同七錢より上等はあまり香ばしかの種物一兩年前總地方にて民有行はれて汪文百尾に付四五錢昨年子よりて一九錢にても賣樣は金魚の不味を

英國蒸氣船港

日本の地形國繪〳〵に船舶の安全港灣の時は當上を望見する樣に足らず如何なり荷物の運搬は實際の損失力に於ても亦を盛む所以に充分の目指ず傷醫西なり西國商船の自ざるべし今